

学 位 論 文 要 旨

氏 名 谷木 由利

題 目 小・中学校における発達過程をふまえた読書生活指導の構想

本研究の目的は、「小・中学校における発達過程をふまえた読書生活指導カリキュラム」を構想することである。「読書生活指導」理論は、今日の高度情報化社会を見通した「読書生活指導実践」に応じる理論である。広く学校現場への汎用性をもつ「読書生活指導カリキュラム」を構想するため、次の4点から研究を進めた。

- (1) 「読書生活指導」の普遍的な原理と方法を取り出す
- (2) 「読書生活指導」実践の「記録」を分析する
- (3) 「読書生活指導」の全体構造を可視化する
- (4) 「読書生活指導」理論汎用化に向けての困難点を明らかにし克服への道筋を描く

第1章 読書指導の動向と課題

今日なぜ「読書生活指導」は要請されるか。「読書生活指導」における「読書活動」は、「探究Inquiry」としての特質をもつことに着目し、知識基盤社会における「読書の役割」について考察した。わが国の読書教育が今「読書生活指導」を必要とする現状についての分析と合わせて、「読書生活指導理論」生成過程における理論的背景と史的展開をとらえた。

第2章 大村はま「読書生活指導」の実際―「読書生活の記録」に着目して―

大村はま「読書生活指導」実践の創始期にあたる1967～1968年度石川台中学校2年生8名の「読書生活の記録」のまえがきとあとがきを、質的分析方法の一つである「修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチ(M-GTA, 木下2007)」を用いて分析・考察した。その結果「読書生活の記録」は、「読書」に関する多様な「生活技術」を表すだけでなく、「生活の中の本の役割」について自覚させるための概念装置(内田1985)であることがわかった。「システムノート型」の「読書生活の記録」による指導は、日常的に自らの興味・関心・意欲のありようの認知を促し、自己の課題を発見し、課題解決に向けて情報の収集を図ろうとする主体の確立が目指されているとよい。

また、個の特性に応じた「読書生活の記録」による読書生活指導は、「読む生活を書きしるすこと」で自らの生活そのものを客観的にとらえ直し、感じたり考えたりしたことを率直に表現する場を生み出す。たとえ1ページでも毎日かさず読み、気づきを書き留めることは、自身の課題発見と解決に向けた「探究的な読書」の起点であり、その行為は「探究課題」そのものの成長を生み出す。第3節で分析対象とした学習者RとKの「読書生活の記録」は、一人ひとりの学習者の「探究的な読書」の過程を物語る「実証」である。

第3章 大村はま「読書生活指導」の実践的提案

—昭和50年版西尾実監修『改訂標準中学国語一～三』（教育出版）に着目して—

大村はま自身が執筆・編集に携わった教科書の中学校三年間を見通した「読書生活指導カリキュラム」の実際から、大村はま「読書生活指導」実践の重要な構成要素と、それらに関連づける「学習の手びき」を抽出・モジュール化し、読書生活指導の全体構造をとらえた。

大村はま「読書生活指導理論」の基本構造は、**三層構造と三つの指導系統**からなる「**読書生活指導システム**」である。「読書生活指導カリキュラム」が内包する三層とは、

- i 「読書生活の記録」
- ii 『読書生活通信』と「読書（関連）単元」
- iii 「ブックリスト」

であり、それらの関連が生み出す「読書活動」は、次の三つの指導系統からなる。

【指導系統Ⅰ】読書生活の関心・態度を育てる—「読書生活」の基盤を作る

【指導系統Ⅱ】様々なジャンルの本を読みこなす技術を習得させる—「読書の範囲」を広げ、自己の考えをもつ

【指導系統Ⅲ】探究的な読書生活を確立させる—自己の課題をとらえ考えを深める

とりわけ i 「読書生活の記録」を書くことと、ii 『読書生活通信』を読むことの往還が、基本的な「読書生活の確立」のための「環境」であり、「システム」であるといえる。「探究的な読書生活の確立」に向けて、学習者の主体的・能動的な姿勢は、こうした「環境・システムづくり」によってもたらされるといえる。

「これからの読書生活指導」は、全教職員が協働で、システムを目の前の学習者の実態に即した「実行性・実現性のある学習材」として提示することが求められる。

第4章「これからの読書生活指導」への実践的提案

高度情報化社会の今日、「読書」は、「探究共同体」というべき読書グループに向かって自己の解釈や考えを説明する責任を有した「社会的かつ能動的な行為」であるといえる。

小・中学校における「探究的な読書活動」は、「新たな知の構築」が協働的になされる過程を体験的に学ぶ場であり、それに伴う「楽しみ読み」から「探究的な読書」への段階的な移行は、「読書への興味・関心・意欲の持続」へとつながる。

「これからの読書生活指導」は、大村はま読書生活指導システムを敷衍した三層・三つの指導系統からなり、その構造は、1) 読書生活指導における主体的探究活動の重要性をふまえた指導であり、2) 「楽しみ読み」から「探究的な読書」への移行とそれに伴う困難点の克服に応えるに十分な指導の工夫を備えた指導である。